

高梁の 近代化遺産⑦

田井橋（川面町・高倉町）

一九三四年の室戸台風では岡山県内の橋梁二千八百五十六が被災し、高梁川水系の橋もその多くが流出しました。『岡山県の近代化遺産―岡山県近代化遺産総合調査報告書（岡山県教育委員会、二〇〇五年）』は、室戸台風のもたらした洪水が次の教訓を残したと記しています。



アーチとトラスを川面に映す田井橋。その姿は、橋の形状・色が相まって豊かな自然と響きあっているように思えます。近代化遺産や鉄道遺産を見て歩く時、ここで立ち止まることが贅沢に思えます。

一・洪水時に流下してくるのは転石、立木、家屋で、これらにより破壊されたのが木橋である

二・流下してきた立木、家屋、木橋などが桁や橋脚に漂着・集積して一種のダムとなり被害を大きくした

三・川床を大きく洗掘した

四・洪水時は平時と異なった流路をとる
復興橋梁には、これらの教訓を活かして四つの共通した対策が講じられました。

一・永久橋とする

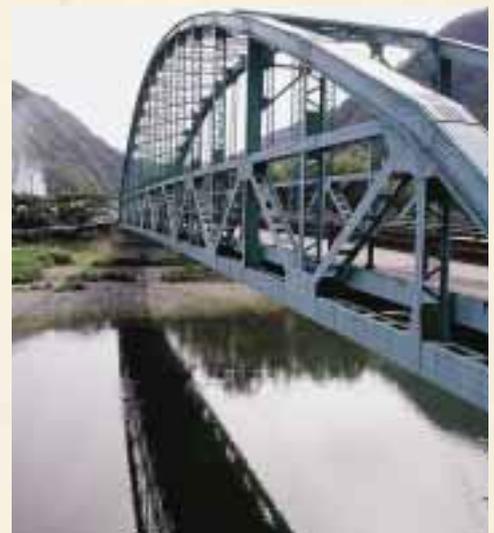
二・桁下高さを取る、支間長を大きくする

三・根入れを大きくする、岩着させる

四・橋台位置、橋脚方向を検討する

高梁川に架かる玉川橋、方谷橋、田井橋、中井橋、総社市の水内橋、新見市の井倉橋は全て下路橋。構造物の下に人や車が通る通行路があります。増水時でも流木などが橋桁の下に掛かることがなく、橋が流出する危険度を低くするためです。今回は、室戸台風の復興橋梁から高梁市川面町と高倉町を結ぶ田井橋を取り上げます。

流出前の田井橋は四径間のトラスと木の複合橋梁でした。四径間とは橋脚を三つ持つ構造。トラスは三角形を連続させて橋にかかる荷重を分散させる骨組です。復興橋梁は一九三七年に竣工し、川面町側を鋼下路ランガートラス、高倉町側を単純プレートガーダーの二径間としました。ランガートラスとはランガーと呼ばれる下路アーチと、トラスの併用橋。田井橋のランガートラスは支間長88・28m。日本一を誇ります。プレートガーダーは



リベット止めは昭和30年代までの接合方法。規則正しく並んだリベットも、田井橋を美しく見せる要因ではないでしょうか。個人的には文化財登録して保存していただきたい近代化遺産のひとつです。

最も単純な鉄製の橋で、明治の鉄道橋梁から発達しました。復興田井橋の橋脚はコンクリート造。上流側には水切りがとられています。

優雅な曲線を描くランガートラスは共にリベット接合。リベットが使用されたのは昭和三〇年代まで、それ以降はボルトナットと溶接に替わります。構造物の製造年代を推定する場合は目安としてください。橋梁にはその素性をしらせる銘板が貼られています。田井橋の銘板には、桜田機械製作所と播磨造船所の名前が陽刻されています。

六月。蛍の飛び交う時刻、田井橋の上から高梁川をながめてください。岸辺に無数の光がひしめき、そのうちのいくつかがときどき静かに川を横切ります。四囲の緑に溶け込んだランガートラス橋は、時間や季節を超えた美しさで道行く我々を魅せます。

（文・吉備国際大学社会学部ビジネスコミュニケーション学科准教授・小西伸彦さん）

編集と発行（毎月15日発行）高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。